

企業におけるAI品質マネジメントに必要な視点 —社会実装に向けて—

2023年10月31日 第2回 AI品質マネジメントシンポジウム

コニカミノルタ株式会社

品質本部 新規事業品質保証部

小宮山英明



氏名：小宮山 英明

コニカミノルタ株式会社 品質本部

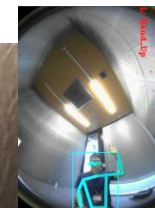
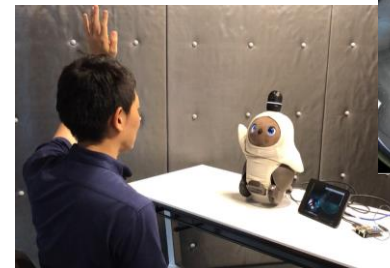
経歴

- 情報機器、介護ソリューションのソフトウェア開発
- 新規事業領域の品質保証
- AIガバナンスの全社実践の推進

現在の
業務

- ① AI品質保証のガイドラインの開発、運用
- ② AI品質保証の社内教育の講師
- ③ AI利活用アセスメント、品質保証の支援

関わった
AI商材



2020年2月 機械学習の品質保証ガイドラインを策定

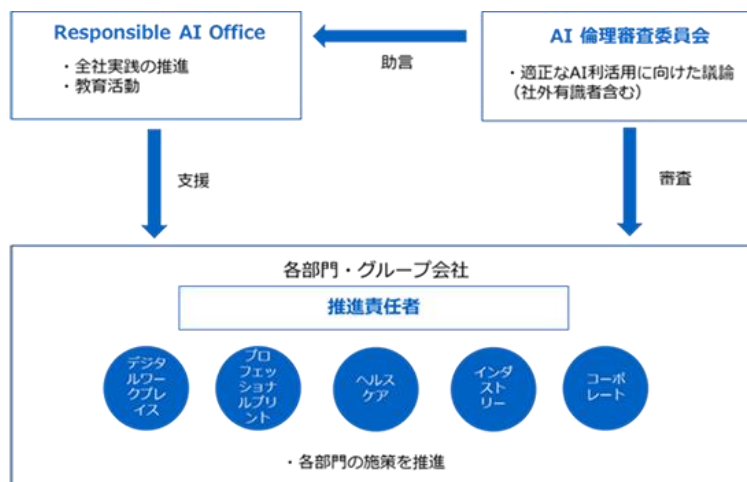
- ✓ 社内のベストプラクティスをまとめてガイドラインを作成
- ✓ AIQMガイドラインなどを参考に定期的に改訂
- ✓ 6事業部でガイドラインに基づいた品質保証が定着



2021年6月 グループAI利活用ポリシー策定

2022年1月 グループAI利活用ポリシーに基づいたアセスメント開始

- ✓ AIを活用する全ての商材に対し、リスクアセスメントを実施し、委員会で審議
- ✓ リリース済みの商材のリスク発生のモニタリングの運用を開始



2022年7月 AI品質保証の教育を開始

- ✓ AI品質保証の考え方、ガイドラインの内容を解説する教育をこれまで6回開催し、100名以上に教育を実施

2023年2月 AI事故発生時の運用を開始

- ✓ AIに起因する事故の定義と事故が発生した時のエスカレーションルールを定義。

AI品質保証を実践する人財の確保

- ✓ ガイドラインを実テーマで実践するには、知識、評価技術が必要
- ✓ 理論だけではなく、実践し品質保証を推進できる人財が不足

世の中のトレンドへの対応

- ✓ 生成AIのように従来のAIの常識が通用しない技術が出てきており対応が必要
- ✓ AIセキュリティへの対応をどの程度実施すべきかの判断が難しい

AI事故への対応

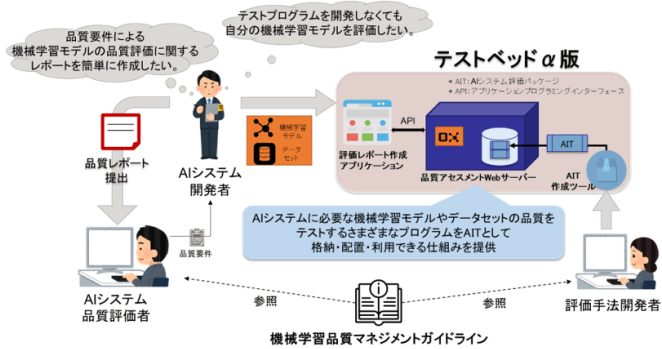
- ✓ AI起因する事故であるかの切り分けが難しい。
- ✓ AI起因の事故が発生した時に、確実にエスカレーションするためには、商材ごとに判断基準や運用者への教育が必要。

品質保証活動の支援ツール

ガイドラインに基づいた評価や品質保証活動を支援するツールを提供を期待



ツールを活用し、AIの品質保証、評価を早くまわし、早期のリリースを実現したい



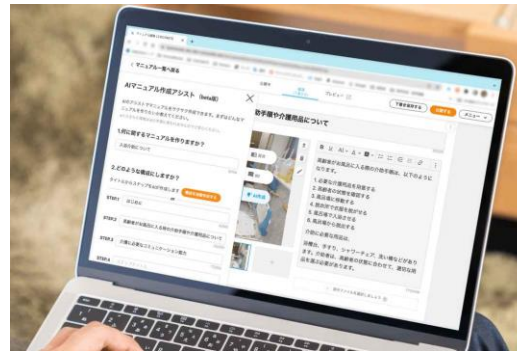
https://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2020/pr20201118/pr20201118.html

新潮流への対応

生成AIを活用した商材の品質保証の考え方、手法の展開を期待



当社の生成AIの品質保証の手法を確立し、該当テーマへ展開したい

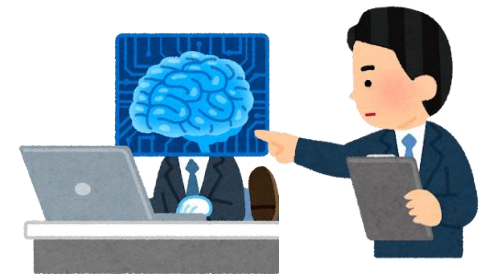


社会のAI品質の要求の定義

AI品質への要求定義の考え方、品質の水準、事故の基準の標準化を期待



お客様、社会から受容される水準のAI商材を開発、提供できるようにしたい





KONICA MINOLTA

150

YEARS